

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
日常生活援助学演習	2	1	佐藤 晶子	看護師	「看護援助学概論」における学習を踏まえ、対象者のニーズに応じた日常生活援助に伴う看護援助の基本的技術を習得する。講義・演習を通して、対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術、活動と休息の援助技術、体温調節の技術、清潔保持の援助技術、食事の援助技術、排泄の援助技術を、健康の保持増進および回復を促すための根拠を理解し、対象者の安全と安楽に考慮して正確に実施できることを目指す。また、日常生活援助を受ける人の心理を理解する姿勢について考える。
治療援助学演習	2	2	堀込 由紀	看護師	医療現場において治療・処置に伴う看護援助は、安全かつ正確であることが求められる。また、治療・処置を必要とする対象者の身体状況や療養生活・療養行動をアセスメントし、対象者に応じた援助を計画、実施することは看護師が日々実施する主な看護業務である。本科目では与薬管理、呼吸管理、検査・処置時の援助を中心に治療・処置に伴う看護援助を安全かつ正確に提供するために必要な知識と技術及び態度を学び、基本的な診療の補助技術とフィジカルアセスメント技術を習得する。
看護援助学総合演習	1	2	堀込 由紀	看護師	臨床現場では、多くの対象者が検査や輸液療法や酸素療法といった治療を受けながら療養生活を送っている。療養生活を支える看護師は対象者1人1人のニーズを捉え、治療内容や病状を考慮しつつ、感染防御にも配慮しながら日常生活援助を行う必要がある。本科目では、これまでに学んだ知識と技術を統合し、紙上事例を用いて対象者の個別性に応じた看護援助実施計画の立案・実施について学ぶ。また、治療内容や病状を考慮した日常生活援助を実施できる技術を習得する。
看護過程論演習	1	2	佐藤 晶子	看護師	「看護過程論」の学習内容を踏まえ、対象者の状況に合わせ個別性を考慮した看護過程を展開できるための基本的な能力を習得する。紙上事例の看護過程展開を通し、対象者の状況に合わせた看護過程の具体的な展開方法について学習する。看護援助時における、情報収集、アセスメント、看護診断、看護援助計画立案、評価までの過程を、対象者の状況に合わせ個別性を踏まえて展開できるための基本的な学習を行う。
成人看護学演習	1	3	金子 吉美	看護師	成人期に特有の健康問題を有する人の紙上事例を用いた看護過程の展開演習により看護過程展開の力量を強化する。また、成人の健康障害を有する人々の看護活動に必要な基本的技術の実施目的や適応、実施方法について考察し、その技術項目を修習する。場面設定をした演習では、患者の観察の優先順位や観察内容を引き出し、収集したデータのアセスメントが適切にできるよう学習する。その上で、アセスメントに基づいた看護ケアの技術を習得する。
老年看護学演習	1	3	星野 泰栄	看護師	これまで学んだ知識と技術をもとに、健康な高齢者を対象とした健康歴の聴取、アセスメントの実際を経験し、高齢者の健康に関する総合的な評価方法を学習する。また、高齢者に特徴的な疾患である骨関節機能障害・循環機能障害・認知機能障害をもつ高齢者の事例展開を通して、アセスメントと看護過程の展開方法を具体的に学習する。さらに、コミュニケーション、活動、摂食、清潔、安全を守る技術等、高齢者への基本的援助技術を、演習を通して習得する。
小児看護学演習	2	3	内山かおる	看護師	さまざまな病気や障害などの健康問題を抱えた子どもの看護過程の展開方法と看護援助技術について学ぶことを目的とする。健康を障害された子どもの健康回復と増進のために必要な日常生活援助技術と診療に伴う援助技術などの小児看護に必要な技術を学ぶ。さらに、健康問題を抱えた子どもとその家族の特徴や精神的・身体的・社会的諸問題を理解するために、事例を用いて、情報の整理・アセスメント・看護診断・ケアプランの一連の看護過程の展開方法を学ぶ。
母性看護学演習	1	3	臼井 淳美	看護師	これまでの既習知識に基づき、妊娠期・分娩期・産褥期にある女性と胎児及び新生児の看護に必要な基本技術（フィジカルアセスメントも含む）を習得する。また、事例を通して妊娠期・分娩期・産褥期の女性と胎児及び新生児における看護過程を展開し、必要な看護援助について理解を深める。
精神看護学演習	1	3	村松 仁	看護師	精神（こころ）の健康問題を持つ人に対する看護過程の事例展開を通して、患者－看護師関係の発展方法、対象者のセルフケアの再構築、及びストレス・モデルを活かした看護展開方法を学習する。精神看護の技術としての自己活用、患者－看護師関係の治療的意味と検討方法を理解し、精神看護学における治療的関係性の構築が理解できること、代表的な精神疾患に対する看護が理解できること、精神障害を持つ人のセルフケアの再構築に向けた看護過程の展開が理解できることを目指す。
公衆衛生看護技術演習	1	4	桐生 育恵	保健師	公衆衛生看護活動の方法である健康相談・面接技術、家庭訪問・家族保健指導、健康教育、健康診査、地区組織活動支援について、演習を中心とする学習により基本技術を習得する。実践現場のあらゆる場面でこれらの活動方法を選択・適用し得る判断力・応用力を養うことを目指し、ロールプレイングや地域の実践例を素材とした活動展開の演習を組み合わせ学習する。
公衆衛生看護活動展開論	2	4	小林亜由美	保健師	地域を単位とした健康課題の探求と、課題解決に向けた組織的・計画的な活動の展開方法を学ぶ。公衆衛生看護活動の展開に用いられる主な理論を理解し、地域の特性と健康課題を捉える方法、活動の優先順位の考え方、健康課題の解決に向けた目的・目標の設定の仕方、目標達成のための手段の選択と活動計画の立案の方法、活動の評価の方法について、講義と演習を通して実践的に学ぶ。

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
助産診断技術学演習	2	4	中島久美子	助産師	「周産期診断学」、「妊娠期助産診断技術学」、「分娩期助産診断技術学」、「産褥期助産診断技術学」、「新生児・乳幼児期助産診断技術学」で学んだ理論に基づき、妊娠・分娩・産褥各期の女性と新生児により良い助産を提供するための基礎的実践能力を養う。具体的な助産ケアとして、妊婦健診、分娩第Ⅰ期の産痛緩和と安楽な分娩期の過ごし方、正常分娩の介助、新生児ケア及び乳房ケアの技術を演習により習得する。また、高次の助産診断・技術法を理解し、ハイリスクや緊急時に対応できる技術を演習により学ぶ。
基礎看護学実習Ⅰ	1	1	萩原 一美	看護師	本科目では、実習施設の見学を通し、これまでに学習した看護・人間・健康・環境に対する理解を深める。院内見学では、主に病院の機能を支える人々の役割や対象者を取り巻く環境について学び、看護師同行実習では実際の看護援助場面の見学を通して、看護師の役割や看護の在り方について考察する。また、看護職としての専門的態度についても学ぶ。本実習は初めての学外実習となるが、この実習で得た経験を今後、看護学を学ぶ動機付けとする。
基礎看護学実習Ⅱ	2	2	堀込 由紀	看護師	対象者に必要な援助を実践するための看護過程の展開ができること及び自己の看護観を深めることを目指し、入院生活をおくる対象者を受け持ち、看護過程を展開する。その中で対象者に必要な看護援助を根拠に基づき、指導者のもとで安全・安楽に実施する。さらに、病棟内で働く他職種との協働活動に参加し、連携の方法を知ることにより、医療チームの一員としての看護職者あるいは看護チームの一員としての看護師のあり方について理解する。
成人看護学慢性期実習	3	3	堀越 政孝	看護師	既習の知識、技術を用いて、慢性期の健康障害をもつ成人期にある対象者を総合的にとらえ、看護過程を実践する能力を養う。慢性期、終末期にある患者及び家族の特徴の理解、アセスメント及び計画の立案・実施・評価、患者の心身の苦痛を緩和する援助及び治療・検査時の援助、患者・家族のセルフマネジメント能力獲得の支援方法を習得する。また、看護活動の記録及び報告、医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し行動する力を培う。
成人看護学急性期実習	3	3	萩原 英子	看護師	既習の知識、技術を用いて、急性期の健康障害をもつ成人期にある対象者を総合的にとらえ、看護過程を実践する能力を養う。周手術期にある患者の特徴、手術によって生じた身体変化に応じた生活を営むための援助の理解、アセスメント及び計画の立案・実施・評価、治療・検査時の援助、急性期にある患者及び家族が疾病と障害を理解し、セルフマネジメント能力を獲得するための支援方法を習得する。また、看護活動の記録及び報告、医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し行動する力を培う。
老年看護学実習	4	3	星野 泰栄	看護師	病院及び認知症対応型共同生活介護を提供する施設（グループホーム）において実施する。病院においては、疾病を持つ高齢者を1名受け持ち、指導者のもとで疾患及び患者の個別性を踏まえた健康問題を把握し、既習の知識や技術を統合して看護過程を展開する。また、グループホームにおいては施設のもつ役割と機能、介護職との連携のあり方を理解し、日常生活を送る認知症高齢者の特徴と援助方法を学習する。さらに、高齢者に向き合う自己の姿勢や対象特性と看護について学問的に追求する姿勢を学ぶ。
小児看護学実習	2	3	内山かおる	看護師	健康段階の異なる子どもが生活する2つの施設（保育所・小児病棟）で実習を行う。成長・発達の過程にある子どもの特徴を理解し、病気や障害があること、治療を受けることや病院に入院することが、子ども自身や家族にどのような変化をもたらすのかを学ぶ。さらに子どもと家族が、いきいきと生活できるための看護職としての援助の方法を学ぶ。
母性看護学実習	2	3	臼井 淳美	看護師	正常褥婦とその新生児1組を受け持ち、指導のもと個別性を踏まえ、看護の計画・実施・評価の過程を展開する。また、外来（妊婦健康診査・1ヶ月健診）・健康教育（両親学級・ヨガ）や分娩の立会いを通し、妊娠・分娩・産褥・新生児についての経過（身体的・心理的・社会的変化）を理解し、健康保持増進・苦痛緩和のための援助方法と保健指導の重要性を学ぶ。
精神看護学実習	2	3	村松 仁	看護師	精神科開放病棟において、入院患者1名以上を受け持ち、看護過程を展開する。指導者のもとで、既習の知識を統合して、精神の健康障害がセルフケアに及ぼす影響を把握し、セルフケア行動がとれるよう援助する方法を考え、実践し評価する。実習を通して精神医療における看護の役割・機能及び精神を障害された個人とその家族の理解を深め、自己の内面的変化を洞察し、自己理解や看護観を深める。また、患者との適切な援助関係を結ぶための看護師としてのコミュニケーション技術について考える。
在宅看護学実習	2	4	山野えり子	看護師	訪問看護ステーションでの実習を通して、地域で生活しながら療養する対象と家族に対する具体的な看護の実践方法を学ぶ。また、地域ケアシステムの中での関係機関・関係職種との連携方法を理解する。さらに、在宅療養者と家族の生活にふれ、訪問看護の実際に参加することで、地域における訪問看護の役割と責任について考える。
総合実習	2	4	上星 浩子	看護師	既習の知識や技術を統合し、ケア提供組織の中で展開されるチームアプローチを通して、総合的な看護実践能力を高める。複数の患者に対し、その特性や状況にあわせた計画的・継続的看護を提供する方法を学ぶ。また、看護の質保障と安全管理のためのケア提供システム、看護職間及び多職種間における協同・連携（チームアプローチ）について、実習指導者と行動を共にする方法により体験を通して学び、理解を深める。さらに、これらの活動を通して学生自身が見いだした課題について探索的に学ぶことにより、看護専門職としての価値と専門性を発展させていく姿勢を養う。

実務経験のある教員による授業科目一覧【看護学科】

2019年度

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
公衆衛生看護学実習	5	4	小林亜由美	看護師、保健師	保健所とその管内市町村における保健活動の実際を体験することにより、保健サービスの対象である地域住民の健康と生活に対する理解を深め、対象の特性に応じた地域保健活動の展開方法を学ぶとともに、地域で活動する看護職の役割と今後の地域保健活動のあり方について展望する。また、産業保健領域の保健活動に触れ、作業環境管理、作業管理、健康管理の実際を学ぶ。さらに、学校保健活動から、養護教諭の役割、学校と地域の連携による児童・生徒の健康管理の方法について学ぶ。
助産学実習	11	4	中島久美子	助産師	10例を受け持ち、正常分娩介助を通して助産過程の展開をする。このうち1例については、妊娠中期から分娩期、生後1カ月までを受け持ち、母子の継続的な健康管理・ケアを行う。また、ハイリスクの妊・産・褥婦及び新生児のいずれか1例を受け持ち、ハイリスクにあるケースの助産診断・技術を習得する。さらに、助産所、市町村保健センター等の実習により地域における助産・母子保健活動の実際を知り、助産師の役割を学ぶ。そして、助産管理の初歩的実践能力を養い、これまで習得した助産学の知識・技術を統合して助産の実践能力を高める。
合計単位数	56				